

令和7年度

自己推薦型選抜 入試問題

試験開始までに下記の注意事項をよく読んでください。

試験時の注意事項

- ① 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- ② 問題冊子は表紙等を含めて15枚、解答用紙は各科目1枚です。
- ③ 開始の合図の後、解答用紙に「氏名」、「受験番号」を記入すること。
- ④ 試験時間は、60分です。4科目から1科目を選択すること。
- ⑤ 記述解答で、字数の指定がある問題では、句読点は1字として数えること。
- ⑥ 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- ⑦ 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ること。

目 次

	ペ ー ジ
国 語	1
英 語	5
化 学 基 礎	9
生 物 基 礎	12

〔一〕 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

ときどき私は、人間たちはどうして過去の歴史に関心をもつのだろうか、と考えることがある。過ぎ去った時代のことなのに、どこ国でもキョウミが失われることはない。

おそらくその理由は簡単なところにあって、どのような歴史をへて、いまどんな時代を生きているのかを、私たちは知りたいのである。⁽¹⁾ どうして、今日の時代がつけられたのか。なぜ私たちは、現在のような生き方をしているのか。

とすると、歴史の研究とは、現在をつくりだした過去の時間の研究だということになる。現在の土台をつくっている時間蓄積の研究だといってもよい。

そして、もしそうだとするならば、ここから新しい問いかけが生まれてくる。それは、歴史とはひとつなのだろうかという問いである。

なぜそんな問いを発するのかといえば、仮に歴史が過去の時間の研究だとすれば、時間とはひとつのものとは思えないからである。

今日では哲学にたずさわる者だけではなく、物理学者や社会学者の一部もまた、この世界にはさまざまな時間が多層的に流れていると考えている。たとえば時間スケールについての研究をもとにすれば、私たちの世界にはいろいろなスケールの時間が^(b)ヘイゾンしていると思われる。宇宙が生まれ^(c)シヨウメツしていく大きなスケールの世界を動かしていく時間。地球が生まれ、地殻変動をおこしながらその姿を変えていく、かなり大きなスケールの時間。自然界が生まれ^(d)変貌^(e)していく過程とともにある時間。私たち人間と等身大の時間。原子の世界をつかさどっている超高速で動いている小さなスケールの時間。さらにすべての生物は、その身の^(a)間に合った時間の流れをもっていると考える生物学者もいる。

時間はひとつではなく、さまざまな時間が多層的に流れているのが私たちの世界であり、ただし人間は自分たちと等身大の時間のなかに身を置いているから、その時間だけが絶対的な時間のようにみえるのではないか。⁽²⁾ 今日では、さまざまな分野の人たちが、こんなふうを考えているのである。そればかりか、人間と等身大の時間もまたひとつではないのかもしれない。幼い子供たちが身を置いている時間の流れと、大人たちが身を置いている時間の流れも、あるいは農業とともに展開する時間と、今日のインターネットが作動するときの時間も、もしかすると異なった時間なのかもしれない。⁽³⁾

すなわち、こんなふうを考えていくと、現在をつくりだした過去の時間自体が、実は多層的につくられていて、⁽⁴⁾とすれば、過去の時間としての歴史も、また多層的に形成されているのではないか、という気持ちになってくる。

それは次のように考えればよいのかもしれない。たとえば自然の歴史と人間の歴史は、⁽⁵⁾相互的な関係があるとしても、同じ歴史軸のうえにつくられているのだろうか。ふたつの異なる時間軸をもつ歴史が、^(d)ときにカンシヨウし合っているだけなのではないだろうか。

同じようなことは、人間の歴史のなかでも発生する。たとえばアメリカの先住民たちは、かつて自分たちの歴史を、つまり自分たちの時間の流れと蓄積をもっていた。そこに全く異なる歴史^(e)時間蓄積をもつヨーロッパ人が上陸してきた。こうしてふたつの歴史^(e)時間がシヨウトツし、先住民の歴史^(e)時間の大半がこわされてしまった。

とすると、次のようになる。かつては私たちの人間世界にも、さまざまな歴史が、つまり時間の蓄積が存在していた。その地域の暮らし方をつかさどった歴史^(e)時間蓄積も、文化史や社会史、経済史といった歴史も、それぞれが独自の展開をとげていた。歴史は多層的であり、ひとつではなかったのである。

そして、この多層的な歴史を、ひとつの「真実の歴史」へと統合したとき、歴史からみたとときの近代社会の形成ははじまっていた。なぜなら、ひとつの歴史軸に国民や世界を統一することによって、近代的な世界はつくられたのだから、である。

(内山節『里』という思想』による)

問 1 傍線部(a)～(e)の片仮名を漢字に直しなさい。

問 2 空欄 A に入る最も適当な語句を漢字一字で答えなさい。

問 3 傍線部(1)「どうして、今日の時代がつけられたのか」とあるが、その経緯を説明した部分を本文中より四十五字以内で抜き出して答えなさい。

問 4 傍線部(2)「ない」、(3)「ない」の品詞名を答えなさい。

問 5 傍線部(4)「過去の時間としての歴史も、また多層的に形成されているのではないか」とあるが、具体的にはどういうことなのか。本文中から二十字以内で抜き出して答えなさい。

問 6 傍線部(5)「相互的」の対義語を漢字で答えなさい。

〔二〕 次の各問に答えなさい。

問1 () () 内の意味に合うように、慣用句を完成させなさい。

- ① 頭が (自分の考えにこだわって、自由な考え方ができない)
- ② 頭を (相手の力を抑制する)
- ③ 目が (価値を見分ける力が優れている)
- ④ 目を (好意を持って面倒をみる)
- ⑤ 耳が (他人の言うことが自分の弱点や欠点を突いていて、聞くのがつらい)
- ⑥ 耳を (聞いたことが信じられない様子)
- ⑦ 鼻が (得意に思う、誇らしく思う)
- ⑧ 鼻を (得意になったり、うぬぼれたりしている人を出し抜いて、あつと言わせる)
- ⑨ 口が (言っではいけないことを他言しない)
- ⑩ 口を (隠していたことを観念して話す)

問2 次の漢字の読みを答えなさい。

- ① 若人 ② 土産 ③ 神楽 ④ 玄人 ⑤ 為替 ⑥ 山車 ⑦ 田舎 ⑧ 寄席 ⑨ 蚊帳
- ⑩ 数珠

問3 次の各文の () に入る言葉として最も適切なものを後の から選んで、記号で答えなさい。一つの言葉は一回しか使えないものとします。

- ① () () 彼は、日本を代表するスーパースターに成長した。
- ② 彼は、その難事件さえ、() 解決した。
- ③ 今は多くの人で賑わっているが、() 夜が訪れると、あたりを静寂が支配する。
- ④ 暗い灰色の雲から、() 雨が降り出しそうだ。
- ⑤ 買ってきたお菓子がすごくおいしそうだったので、() 食べてみました。

ア	いまや	イ	いまだに	ウ	とつさに	エ	たちどころに	オ	いまでも	カ	やがて	キ	いまさら
ク	いまにも	ケ	やっと	コ	さっそく								